

平成 24 年度採択 申請区分 I ⑨ 明治大学

「日本 ASEAN リテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム」

●相手大学・機関

インドネシア大学（インドネシア）、バンドン工科大学（インドネシア）、ラオス国立大学（ラオス）、マラヤ大学（マレーシア）、マレーシア工科大学（マレーシア）、フィリピン大学ディリマン校（フィリピン）、アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）、デ・ラ・サール大学（フィリピン）、シンガポール国立大学（シンガポール）、チュラロンコン大学（タイ）、シーナカリンウィロート大学（タイ）、キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）、カセサート大学（タイ）、泰日工業大学（タイ）、ハノイ貿易大学（ベトナム）、ハノイ国家大学外国語大学（ベトナム）、ホーチミン市国家大人文社会科学大学（ベトナム）

●主な活動内容（概要）

・17のアセアンコンソーシアム大学との間で、学生交流、教員交流を進めることで、双方の国・地域で、日アセアンリテラシーを持った学生を育成している。海外教育拠点である「明治大学アセアンセンター(MAC)」をバンコクの協力大学（シーナカリンウィロート大学）内に設置、タイの複数の協定校と長短期の様々な学生交流プログラムを展開している。また、アセアンセンターを核としてアセアンコンソーシアム大学の学生・教員とのワークショップ、日本とセンター間での遠隔授業を実施。日本人学生には「東南アジアの文化や社会を学ぶ機会」を提供するとともに、ASEAN 側の学生には「日本の言語や文化を学ぶ機会」や交換留学生の渡日前教育も提供している。

●プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等）

現状・課題

・危機管理上の課題：タイの国内政治情勢が落ち着きを見せ始め、本事業において中核をなしているタイの協定大学との学生派遣プログラムも支障なく実施出来ているものの、バンコクに所在する明治大学アセアンセンターを活用し、危険情報の収集や留学中の学生に対する危機管理を引続き実施している。

・センターの法的課題：常駐教職員の駐在上の身分や現地での事務対応などについて、タイ当局の規制が厳しいため、協定校の協力を得て、また現地法人へのアウトソーシングで現状では対応している。

成功事例

- 1.【協力大学間での連携教育活発化】 理工学研究科建築学専門課程「国際プロフェッショナルコース」では、2014年1月にアセアンセンターにおいて建築ワークショップを開催。完全英語コースの特徴を生かし、地元のチュラロンコン大学に加え、シンガポール国立大も参加し3大学学生が合同開催するワークショップを実施。
- 2.【日本発の遠隔授業開始】2015年1月より、シーナカリンウィロート大学人文学部学生向けに、本学教員がテレビ会議システムを活用した遠隔授業を開始。アセアンセンターの教員と連携して授業を実施することで、受講学生（タイ人）に対し、現地でもきめ細かなフォロー講義を行い、学生の授業理解を向上させている。また、本学学生をサポートとして参加させることにより、日本人のタイ理解の機会にもなっている。
- 3.【産学連携】優秀なASEAN出身学生の採用に積極的な日系企業と連携し、アセアンセンターにおいて、採用マッチングイベントを開催予定。（現地大学とのパイプを持たない企業側に対する調整役等も実施）

●学生交流数

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
受 入	—	—	50 人	10 人	75 人	86 人	105 人	105 人
派 遣	—	—	50 人	17 人	75 人	139 人	110 人	110 人

(※) 予定含む